

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」
まちだ納税貯蓄組合連合会優秀賞

「税金は未来の私たちへの投資」 町田市立町田第二中学校 3学年 森木 まなり

父は公立中学校の教師である。私たち家族は働いてお金を稼いでくれる父のおかげで生活ができています。

ある日の食卓、私はテレビで税金のニュースを見ながら父に尋ねた。「父さんも税金を納めているんだよね。」すると父は、「そうだよ。でも公務員の給料も税金から来てるんだよ。」私は父のこの言葉を聞いて驚いた。父の給料が税金だということは、私たちの生活は国のおかげということになる。さらに父は所得税を納めているから、税金が国と家で循環していることになる。これでは一体、私たちは何のために税金を納めているのだろうか。

資料を見て始めに驚いたのは、公立学校の児童や生徒一人あたりに一年間で、小学生は約九十万円、中学生は約百万円も税金が使われていたことだ。要するに、税金を払う子供も大人も、将来働いていく私たちのために税金を払っているのだ。私は納税して下さる人々に感謝をしたい。

さらに、日本で少子高齢化が進むことによって、これから税金は社会保障に多く使われるようになるだろう。これも、私たちが生きていくために必要な費用だと思う。しかし、そんな中で働き手が減ってしまうとどうだろうか。所得税による税が減り、保障することが難しくなるはずだ。だからといって、子供にも身近な消費税の引き上げなどを行ってしまうと国民は反対の声を上げるはずだ。これからの税の確保の方法や効率的な使い方工夫しなければならない。

他にも、公共事業や文教及び科学振興、防衛、コロナ対策など様々なことに税金が使われていることを資料から知った。また、国から地方に向けてお金が払われていることや、国債が二割ほど支出に当てられていることも知った。

これらが歳入によってまかなわれなくなると、私たちは生活できない。だから税金を払っている。子供や社会保障に使われているから、税を納めると共に私たちは未来の自分に投資しているのである。しかし私は、資料を見るまで税金の具体的な使われ方をほとんど知らなかった。国民に税金を快く納めてもらうには、テレビのニュースやラジオで、税が私たちの役に立つのだということや国はもっと発信すべきである。そして国民から意見をももらうことで、税金のより良い使われ方が見直されるのではないか。公務員でも誰でも、日本全体で協力して税を納めていくべきだと思った。